

C3・C4 **審判長**

団体競技（男子：構成主任・実施主任，女子：派遣審判）

個人競技（男子：構成主任・実施主任，女子：派遣審判）

氏名（寺田江身子）

1. 採点上打ち合わせた事項

12月の全国研修から変更になった部分、ホームページに記載されているQ & Aの内容を中心に、確認しながらの研修と打ち合わせを行った。  
映像研修で、Dのカウント、Eの減点の確認を行い、統一見解を図った。

2. 採点上起こった事項とその処理

個人

D1 Sは単に足を踏んでいる選手が多い

手具操作とBDの関わりの見極め、バランスで固定しているが手具操作がないという場合があった

ローテーションの回転数での見極め

バランスの固定は全体的に短い印象がある

フープのくぐりぬけについてタイミングが際どい場合が多い

作品の中でSがいくつか入っているが1つ2つしかカウント出来なかった

ローテーションの多くは踵が低く軸が不明確であった

ボールでの小さな操作が見えにくく不明確であり関わりがないのが多くみられた

リボンでBDの際に身体にリボンが絡まりノーカウントになってしまった

D3 投げ等のADの取りのステップが演技なのか1歩なのか

Rの基準の間の回転ステップや間や同じ回転があった

リボンの螺旋の描き方が甘いものが多い

RやADのリボン端残しが多い

EA フロアへの使い方に偏りがあり減点した選手が多くいた

曲に対して踊りこなせていなかったり、良く動いているのに曲とミスマッチで何を伝えたいか分からないほど残念な選手が多く選曲の大切さを感じた

前半は良いが後半から終盤にかけて曲に遅れたりバタバタが収まらず残念な場合があった

AD.,BDのバランスの前等に中断が目立った

E3 落下なしの移動の一步の0.3の減点かの見極め、R中のシャッセ0.5の減点の見極めの判断。

身体難度の0.1-0.3-0.5の減点でとくに0.3と0.5の判断の仕方を見極め。

ターンジャンプでの前足の下りやシーソーが多くある。

しかのフォームでの前足の下り、たたみの甘さを感じる実施が多い。

リボンの端残りが多くAD中の0.3減点など、また図形が詰まっていないなど、リボンではとくに手具の減点が多くあった。

R中の姿勢の悪さ、投げのミス判断だけでなくそういった部分の違いを出すことの重要性も感じられた。

バランスのフォームの一秒間の静止のないものも多くあった。(ほとんどの実施が振り上げのようになっている。)

## 団体

**D1** 交換の追加基準のくぐり抜けや座の価値のところでは2人の見解が分かれることがあったがそのつど、その実施内容を確認し点数出しを行うことができた。くぐり抜けではとくに2部位くぐり抜けたか、座では座の位置にて待つことができているかまたは、形が変えられていたか、確認することが多かった。

身体難度では個人同様に、減点が入りカウントとするのかまたはノーカウントなのか、テクニカルで言う0.3減点かまた0.5減点のノーカウントなのか判断に迷うものが数件あった。ただ、5名すべての実施がどうであったかと振り返ると5人の中の1人がフォームが不足するというようなものも多かった。

身体難度の必須個数の1つがサブグループ実施となり0.3の減点を入れたことが1件あった。研修でこのケースの確認ができていたので、慌てることなく判断することが出来た。

**D3** 方法やタイミングなど、カウントに悩む連係が多くあった。

複数投げが低く距離が短いチームがあった。

Rと連係、連係と連係の同じ回転があり、後の方をノーカウントにした。

**EA** 多様性の部分の差を見極めに課題。

ミスをした時のリズムの減点が出来ていなかった。

**ET** 不正確な軌道による移動について、演技構成上なのか、ミスによるものか、また、1歩か2歩以上か判断に迷う事が多かった。

大きなミスがあった時の四肢の減点について、ミスにとらわれず見極める必要がある。

フープの足取り、フープで押さえつけてとる時に、先にフープが落下しているか。

斜め投げ、軸回し投げ、転がしの跳ね、回しの面のぶれは多く見られた。

## 3. その他特記事項・意見・感想等

今年度、ルールが大幅変更後、初めての高校生の全国大会であった。

システム上、紙ベースでの集票・手入力の為、確認してから決定点を出すのに時間がかかり、時程の遅れが15分程出てしまい、運営上に迷惑を掛けてしまった。後半は集票等の流れができてきたのと審判採点の流れも良くスムーズに進行出来たと思う。

団体競技では実施において審判間の見解を合わせて頂いたり、修正して頂いたり、集まることが多くなってしまった。

ルール変更で、実施技術の減点が大きくなった事、芸術とは何か、何が大切なのか？という部分が、審判技術として今後の課題である。

最後に運営を携わって下さった福島県体操協会の方々に感謝し、お礼申し上げます。

有難うございました。